

ボランティア学習論：持続可能なボランティアとは

【学習目標】

1. ボランティア及びボランティア学習の意味や意義
2. 「役立ちたい」気持ちを行動へ：潜在的ボランティアの存在と年代別ニーズ
3. 持続可能なボランティア：単発、短期、中期、長期の活動メニューと交流
4. 支援者として、子ども・若者にどうかかわるか？

0. **自己紹介** 保育系大学 2005 年～2016 年 → 神川大学人間科学部 2016 年～
ボランティア活動を通じて、人間が成長するプロセスに着目、活動成果を可視化する試み
例) リタイア後のシニアのボランティア活動：プロダクティヴ・エイジング研究
子どもの活動をサポートする学生とシニア：世代間交流研究
開かれた大学と地域との連携：地域貢献活動の研究、ボランティア学習の研究
活動に成果を見える化する評価指標：ボランティア評価研究

1. ボランティア及びボランティア学習の意味や意義

●ボランティアとは

営利目的ではなく、自発的動機から、自分の時間、能力、エネルギーなどに基づく労働を第三者にて提供する人。自由意思に基づく社会的行動。

●ボランティア学習とは＝ 社会貢献型体験学習

ボランティア活動プロセスを意図的・継続的に学ばせる体験的試み。

自発と強制のグラデーション。

コミュニティ・サービスマーケティング、シティズンシップ・エデュケーション（市民教育）

2. 「役立ちたい」気持ちを行動へ：潜在的ボランティアの存在と年代別ニーズ

●「役立ちたい」気持ちがあっても…踏み出せない

内閣府「社会意識に関する世論調査」

「日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか」63.9%

最も高いのは40代、50代：40代は67.2%、50代は67.9% → 中年層に着目

●年代別にみた「やりたい」気持ちをつかみ・後押す

属性（年齢、性別、仕事、結婚、子育て、介護、経済的状況）で異なる生活とニーズ

多文化共生→多様性・ダイバシティの面白さと難しさ、全ては分からない。

例) 部活（同質集団・同質目的）→ボランティア活動（異質集団・異質目的）

3. 持続可能なボランティア:単発、短期、中期、長期の活動メニューと交流

●ボランティア活動の参加程度の違い

活動頻度：単発（当日のみ）、短期（準備も）、中期（半期、1年）、長期（3年程度）

活動程度：参加は行事・会合に加わることで、参画は計画の立案に加わることで

多くの声）当日・準備程度の活動協力、参加機関にチーム等がある

短期的・スポット的・イベント的な「参加」ができる気軽な機会をつくる。

●何のために活動するのか？

	ボランティア				ボランティア支援者者
	子ども	若者	中年	高齢者	〇〇団体
何のためか					
なぜ「〇〇の活動」か					
なぜ「やらざるを得ない」か					
何に応えたいか					
どうありたいか					

4. 支援者として、子ども・若者にどうかかわるか？

●人の視点

- ✓ ボランティアに関心や意欲を持つ人間（個）のよき理解者へ。（ニーズに寄り添う）
- ✓ 一人ひとりの生活が活動を通じて「豊かになる」「成長する」プロセスを見える化する。
- ✓ 人が動き出す、人が育つのは時間が掛かる。「待つ」「寛容な言葉かけ」「相互に感謝」。

●組織の視点

- ✓ 人と人がつながる、人と組織がつながる、共感的な関係づくり
- ✓ ゆるやかな生き方、ゆるやかな組織との関わり、ゆるやかなビジネス感覚を肯定

●地域の視点

- ✓ 地域の未来の姿を展望する
- ✓ 地域の魅力、地域の価値に気づき、新たな価値の創造を担う人を創る。

講師 齊藤ゆか（神奈川大学人間科学部） yukasai@kanagawa-u.ac.jp

資格教育課程センター 社会教育課程（13科目 26単位）×2 キャンパス担当

全学教養教育センター 体験型研修部会長、「ボランティア論」「生涯学習論」の担当

著書：『ボランティア評価学』ミネルヴァ書房 2022、『ボランティア活動とプロダクティヴ・エイジング』ミネルヴァ書房 2016、『実践事例にみるひと・まちづくり』他